

「水のありがたさ」

「ジャージャー。バシャバシャ。」
ぼくが小学生のとき、お風呂に入るときはいつもシャワーを使っていました。今も使っているのですが、今と小学生のときの使い方がちがいます。小学生のころは、頭を洗うときも、ずっとお湯を流しっぱなしでたくさん水を使っていました。特に、冬はとても寒かったので、ついいたくさんお湯を使ってしまうていました。シャワーだけではありません。歯をみがくときや、外から帰ってきて手を洗うときも、ずっと水は出しっぱなしでした。そんなある日、家に帰ってテレビをつけるとあるニュース一っしか放送されていませんでした。どのチャンネルを見てもそのニュースについてしか放送していませんでした。一体それは、何だと思えますか。それは東日本大震災が起こったことがニュースで放送されて

山添村立山添中学校 三年

井ノ本 夏輝

いたのでした。
二〇一一年三月十一日午後二時四六分。この時、東北地方で宮城県沖を震源とする、マグニチュード九・〇の大きな地震が起きました。直後には、巨大津波が押しよせ、東北の町をのみこんでいきました。その後一週間は震災の話でいっぱいでした。テレビや新聞では募金などを呼びかけたりしていました。ニュース番組では被災地の避難所を訪れて、地元の人に話を聞いていました。
「ガス、電気、水。生活に必要な物がたりていない。食料や衣服などもあまりない。」
ぼくはこの言葉をきいて、「ドキッ」としました。今までぼくは、必要以上に水を使っていました。なのに、水が欲しいのに使えない人がいる。そう思うと今までのぼくの水の使い方について、考えさせられました。そして

ぼくは、水の使い方について、家族と話し合いました。

「どうしたら、水のむだをはぶくことができ
る？」

「歯みがきとか、手を洗うときとかは水を止
める。」

「食器を洗うときもね。」

次の日から、ぼくと、ぼくの家族は水の節
約に努めました。例えば、ぼくと弟はシャワ
ーは冬は寒くてもがまんして、使わないとき
はしっかりと止めたり、手を洗うときも止めた
りしています。おばあちゃんや花の水やりに
使う水を、水道水を使わずに、雨水をためて
使ったりしています。お母さんは、洗たくで
使う水を、おふろの残り湯で洗たくしたりし
ています。ごはんを食べた後、食器を洗うと
きは、水を容器にためて、その中で洗ったり
しています。ぼくは、はじめは「めんどくさ
いなあ。」とか、「いややなあ。」とか思ってい
たけど、長いこと続けると、慣れてきて、け
っこう楽しくなってきました。そんなとき、
お母さんから、
「ただでさえ節水できてると思う？」

ときかれたので、ぼくは、
「四分の一くらいかな？」
というところ、

「正解は三分の一でしたー。」

と言われました。びっくり。今まで使ってい
た水の三分の一の量を節約できていました。
ぼくはそこまですべて思いませんで
した。そして中学生になり、環境について学
びました。そこで、もっと水の大切さについ
て学びました。世界でも水不足や自然災害で
水がないところもあることを知りました。最
近ではネパールの大地震で、子どもたちが水
を取り合っている写真を見ました。それを見
てもっと水を大切にしたいと思いました。こ
れからも節水を心がけていきたいです。